

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立華陽フロンティア高等学校通信制課程

学校番号

6412

1 学校教育目標	<p>1 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。</p> <p>2 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。</p> <p>3 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）</p> <p>1 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた生徒 2 主体的に学習する意欲や態度を身につけた生徒 3 心豊かでたくましく生きる力を身につけた生徒 4 社会の規範を守る態度を身につけた生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）</p> <p>1 「わかる喜び」の涵養（学びの再チャレンジ） 2 キャリア教育の推進 3 「カウンセリングマインド」に基づく積極的傾聴（共感的理解・無条件の肯定的関心・自己一致）</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）</p> <p>1 「自分の生き方」を真剣に考え、やると決めたことはあきらめない生徒 2 「なりたい自分」を見つけたいと願っている生徒 3 自分にも、周りにも、優しい言葉をかけてあげられる生徒</p>
3 現状の分析	<p>○公開授業や職員研修を積極的に行うことでユニバーサルデザインに配慮した授業改善がすすみ、学習指導に対する生徒からの肯定的評価が高まっている。</p> <p>○分掌と学年の連携した粘り強い進路支援体制により、コロナ禍においても生徒の進路希望の実現に効果を発揮し、進路指導に対する生徒からの肯定的評価が高まっている。</p> <p>○生徒の人格を尊重し、自己肯定感を抱かせる指導やカウンセリングマインドを生かした指導を行うことにより、教師と生徒との信頼関係が構築できている。</p> <p>▲多様な生徒の入学により、さまざまな問題を抱える生徒が増加し、個に応じた指導が困難になりつつある。</p> <p>▲学習習慣が確立されていなかったり、不登校で学習空白があったりして、通信制の本分である「自学自習」が困難な生徒が増加している。</p> <p>▲自己肯定感が持てず、キャリア意識が低い生徒が多い。</p>		
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒の生育歴や学習歴に配慮した指導（自信や見通しの持てる指導） ・ICT機器の利活用（双方向型の面接指導・添削指導・学習支援） ・コミュニケーション能力の育成（SSTの推進・マナー指導） ・進路意識の向上（早期からのキャリア教育強化、計画的・継続的な進路指導、外部機関との連携） ・特別な支援が必要な生徒（発達障がい等）への対応 		
5 今年度の具体的な重点目標	<p>1 学習指導の重点 ①わかる喜びを感じられる学習指導の推進 ②自ら学ぶ意欲や態度の育成</p> <p>2 在り方・生き方指導の重点 ①社会の規範を守る態度の育成 ②自己肯定感の醸成と社会参加のための基盤となる力の育成 ③キャリア教育の充実 ④ソーシャルスキルの向上</p> <p>3 特別活動・健康安全教育の重点 ①他者と協働できる力の育成 ②健康安全教育の充実</p> <p>4 働き方改革の重点 ①業務のスリム化の推進 ②超過勤務の削減</p>		

年 度 目 標		年 度 末 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
学習指導	<p>①ユニバーサルデザインの考え方を基盤にした面接指導を実践するとともに、学び方の支援や、基礎的基本的な学力の定着を目指した指導を行います。</p> <p>②学ぶことの意義や喜びを感じる教科指導を目指し、積極的かつ効果的なICTの利活用や実験・実習などを導入した指導法の研究を行います。</p> <p>③MetaMojiを活用した連絡体制を確立し、通信教育の基幹であるレポート作成支援のための、細やかなサポートを行います。放送視聴等を利用した自学自習を推進し、学習を深める機会を設けます。</p> <p>④自己の生き方を見つめると共に、「なりたい自分」を意識していけるよう、ソーシャルスキルトレーニングやグループワークを通して、意見交換の場を設けるとともに、発表やまとめ方の工夫等を指導し、言語活動の充実を図ります。</p>	<p>①②④ 生徒による授業評価の分析。レポートアンケート結果の分析。学習指導にかかわるアンケートで、肯定的な評価80%以上を目指します。面接指導参観や公開面接指導における評価を確認します。</p> <p>③添削指導に関わるアンケートで、肯定的な評価80%以上を目指します。</p>	<p>①半期単位認定制度の実施により、前期末に7名が卒業し、後期に2名が復学、28名が後期転入学した。後期再受講科目の登録も行った。今年度から観点別評価が始まり、試験の得点のみではなく、日頃の取組が一層評価に繁栄されるような評価システムを確立した。関連する生徒の評価も昨年度より上昇した。</p> <p>②③MetaMoji 上のアップロードによりプリント配付やアンケート回答における利活用が増えた。また、後期から数学科において希望者に対してレポートのデジタル化の試験運用を開始して添削も行った。ICT機器の効果的な利用が反映され、アンケートでは約9割の生徒が、面接指導が分かると回答している。</p> <p>③前期報告課題アンケート回答者のうち肯定的な評価は90%以上であった。NHK高校講座や教師の自作動画を視聴させ、面接指導時間の減免措置を活用した。</p> <p>④1年次の選択科目（前期）「コミュラボ入門」を今年度から開始した。コミュニケーションの不安を抱く選択希望者を対象に実施し、後期の「総合的な探究の時間」（全員受講）につなぎ、グループ活動も取り入れながら実施した。また、2年次においては希望者に対して「コミュラボ自立」を新規開講した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○3学年で前期単位修得率が前年を上回った。</p> <p>○生徒の「出席状況」「レポート及び放送視聴票の提出状況」の確認を教育支援サービスmanabaにより開始した。生徒保護者自ら、スマートフォンやタブレット、PCなどで状況確認できるようになった。</p> <p>▲職員添削研修会で観点別評価を含めて実施した。定期試験の追試者についての対応は、来年度に向けて検討する。</p> <p>○公開授業を行い、授業力向上に向け交流した。</p> <p>○ICT機器について職員研修を行い、一層の利活用を進める。</p> <p>▲ネット環境を利用した情報発信とともに、レポートのデジタル化も含めた研究や試用を促進する。</p> <p>○自己の意見の表出や他者の意見の尊重等について具体的に学ぶことができたという生徒の感想が多数寄せられた。</p> <p>▲新規開講された今年度の講座の反省をふまえて改善を行うとともに、継続的な学びができるよう、「コミュラボ自立3」（3年次生対象）を開講する。</p> <p>○ユニバーサルデザインの観点については今後も継続していく。</p>	A

<p>在り方・生き方指導 (生徒指導) (進路指導)</p>	<p>①学校という社会を構成する一員として、常に他者の立場に配慮し、全体の決まりやルールを守ることによって安心安全な社会をつくらうと励む生徒を育てます。</p> <p>②個々の教育的ニーズに応え、カウンセリングマインドをもって生徒と接します。必要に応じてコミュニケーション講座や個別の教育支援計画を活用し、個別の支援を充実させます。</p> <p>③「キャリア・パスポート」の活用と継続的な教育相談により、社会的な自立を目指し、進路目標に向かって主体的に活動できるよう支援します。</p> <p>④主体的に学習に取り組む態度の育成を通して、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、挨拶やマナーの指導も徹底します。</p>	<p>①ルールやマナーに関わるアンケートで、肯定的な評価70%を目指します。</p> <p>②個に応じた支援が適切に計画・実施されたかを指導内容・指導方法・評価などから確認します。</p> <p>③進路指導に関わるアンケートで、肯定的な評価を1、2年次生で70%以上、3年次生で80%以上を目指します。</p> <p>④自己評価を行う機会を設け、その回答状況により確認します。</p>	<p>①人権アンケート等においては、肯定的評価70%を上回った。規範意識をもって安心安全な学校生活を送ろうとする雰囲気醸成されている。</p> <p>②カウンセリングマインドをもって生徒と接し、個別の教育支援計画を作成し、状況に応じて迅速にケース会議を行い、問題解決に努めることができた。具体的には10月よりスクールカウンセラー(臨床心理士)を1名増員し日曜スクーリング放課後のカウンセリングを可能にし、また支援員と連携しながら対象生徒への学校生活における必要な援助を行うなど積極的な活用を行った。</p> <p>③「キャリアパスポート」に、進路ガイダンス等の振り返り、「総合的な探究の時間」の報告課題、教育相談や懇談での聞き取り等を生徒毎に分類して保管し、個々に対応した進路指導に役立てた。進路指導に関わるアンケートに回答した1～3年次の生徒の肯定的な評価が76%を超えた。コロナ禍ではあったが、2年次生対象の進路ガイダンスも予定通り2回行い、自己の適性に合った進路を主体的に選択できる態度の育成に努めた。</p> <p>④進路ガイダンスや就職・進学試験における面接練習において、基本的な挨拶や入室マナーの指導を行うだけでなく、対話的な指導によってコミュニケーション能力の育成にも努めた。また全校生徒に対して職員室への入室マナーや言葉遣いについても継続的に指導を行っている。安全衛生面を十分配慮して実施したインターンシップは、コミュニケーションの大切さを体得する貴重な機会とすることができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○生徒の安全を第一に考え、朝の登校指導、スクーリング時の巡回指導、始業前指導等を有効に実施することができた。</p> <p>▲未然防止を常に心掛け、更なる肯定的評価を目指して、全職員が生徒指導を行えるようにする。</p> <p>○生徒の実情に応じ個別の教育支援計画については作成し保護者とも連携しながら支援を行った。</p> <p>▲全職員が、共通理解をもち対応していけるようにする。</p> <p>○引き続きコロナ禍ではあったが、進路諸行事を対面形式で行い、多くの生徒が参加し、進路について考える良い機会となった。</p> <p>▲中学校や前籍校から引き継ぐ「キャリア・パスポート」を、いかに効果的に活用させられるかを検討する必要がある。</p> <p>○個人差はあるが、年次が上がるにつれ、コミュニケーション能力やマナーは向上している。またインターンシップやアルバイト等の学校外での経験や体験を通して自己の適性を見定めることができるよう、呼びかけや支援の態勢を強化していく必要がある。</p>	<p>A</p>
--	--	--	---	-------------------------------------	---	----------

<p>特別活動 健康安全教</p>	<p>①学校行事や生徒会活動、部活動等を通して仲間の大切さや仲間を思いやる気持ち・態度を身に付けさせ、他者と協調して社会を作ろうとする生徒を育てます。</p> <p>②交通ルールの遵守及び新型コロナウイルス感染症対策の観点から「命を守る」行動を自らの主体的判断に基づいてとれるよう目指します。</p>	<p>①学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア清掃、MSリーダーズ活動等への参加率や取組状況で確認します。</p> <p>②校外一斉指導、HR・総合的な探究の時間の取組状況で確認します。</p>	<p>①生徒会執行部がリーダーシップをとり各種生徒会活動を実施。各種行事における参加率は80%近く多くの生徒が行事に参加することができた。</p> <p>②交通安全指導では危険区域を中心に声掛け指導を行った。スクーリング時の健康チェックにより全生徒の健康状態を対面で確認、黙食指導や巡回時における声掛けなど行った。スクーリング時には自己管理の徹底などについて啓発を行った。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○行事を通じて人とつながろうとする生徒の主体的な姿がみられた。</p> <p>▲感染対策に配慮しながら通信制の実情に応じたさらなる魅力あふれる行事の展開。</p> <p>○対面による健康チェックにより生徒の健康状況を具体的に把握できた。自己の判断で登校を見送るなど主体的に行動できる姿がみられた。</p> <p>▲数名の自転車通学者に対するヘルメット着用指導のあり方について検討が必要。</p>	<p>A</p>
-----------------------	--	---	--	-------------------	--	----------

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

<ul style="list-style-type: none"> 多様な背景を持つ生徒に対し、先生方が一人ひとりを大切に接していただいていることがよく分かった。 低学年次よりキャリア意識を高める指導を継続していただきたい。 自己肯定感を高めるため、オンラインを活用した取り組みを通して、達成感を得られるような指導を行うとよい。 社会で生きていける力を付けるために、ICTを活用するだけでなく、情報リテラシーについてももしっかり指導していただきたい。 ICT活用など新しいことにも積極的に取り組まれていることが分かった。実績を積み上げて必要な機器を要求していくとよい。 社会との関わりが少ない生徒にいきなり就職や進学はハードルが高い。スモールステップとしてアルバイトを活用するとよい。 大学では学生の活動（出欠や科目登録、レポート提出等）の殆どがデジタル化されている。高校時代からデジタル化に対応したスキルを身に付けてほしい。 	<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 自学の意欲向上に向け、観点別評価を一層活かし面接指導や添削指導の充実を図る。 多様化する生徒に対して、ICTも活用して学習支援をはじめ生活や社会的な自立を含めて、個に応じたきめ細かな支援体制の充実を図る。 「キャリア・パスポート」の有効活用を一層促進し、よりきめ細かな進路指導が入学年次から継続してできるようにする 自己肯定感を高め、キャリア意識を醸成するため、インターンシップ等の体験的活動や資格取得を奨励するとともに、本校の多様な生徒実態に即した、進路指導におけるサポート体制の更なる充実を図る。 全職員によるカウンセリングマインドに基づいた指導で、規範意識やマナー意識の向上へ繋げる。また、危機管理に対しても、全職員が対応する力を身に付ける。 コロナ共生社会を見据え、行事の望ましい在り方について検討を進めるとともに、社会の変化に即しながら、さまざまな力を身に付けさせるような特別活動を実施する。
---	--